

"Great Wall" Street Journal

長城街日報

～中国株の現場から～

No.029 (不定期刊)

東洋証券株式会社
上海駐在員事務所 所長
奥山 要一郎
2007年入社。本社シニアストラテジ
スト等を経て、2015年より現職



真夏のナベトーク！

梅雨明けの上海。最高気温 35 度以上の猛暑日が続き、夏本番といった様相だ。うだるような暑さの中、心も体もすでに夏バテ気味なのだが、こんな私の強い味方は「火鍋」だ。字面だけでも刺激的なこの鍋料理。熱さをもって暑さを制す。冬の定番料理を真夏に食らう日々が始まった。

★ ★ ★ ★ ★

中国の火鍋のポイントは、①鍋底（スープ）、②具材、③つけダレ、の三つ。これらが三位一体となり、鮮やかな見た目や独特の匂いと共に食欲を十二分に誘ってくれる。

まずは①の鍋底。中国語で“グオディー”という、火鍋レストランで最初に決めるスープの味だ。一番人気は、唐辛子や花椒をふんだんに入れた激辛タイプ。「麻辣（マラー）火鍋」とも言われ、スープはもちろん真っ赤だ。花椒は、日本の山椒と似ているが、ピリっとした辛みと口の中が痺れるような感覚が特徴的。舌の感覚が麻痺してしまうほどである。

鍋は真ん中で仕切られたものもあり、一方に激辛スープ、もう一方にマイルドな味付けのスープを入れて注文することも可能。このような鍋を、夫婦の仲が睦まじいことになぞらえて「鴛鴦火鍋」と呼ぶ。上海の人気店「撈王（ラオワン）」では、豚肉と鶏肉をベースに丸一日以上煮込んだ絶品スープが売りだ。実にウマイ。

次は②の具材。肉の定番は牛肉や羊肉だ。火鍋は元々、内モンゴルの羊肉料理が発祥という説もあり、その流れが引き継がれているよう。また、腸や胃袋など内臓系具材（いわゆる「モツ」）が多いのも特徴。中には「豚の脳味噌」と



見ているだけで汗が出る激辛火鍋！

いうゲテモノもある。一度食べたことがあるが、柔らかい豆腐と言うか、プリンのような食感と言うか……。

ちなみに、私が必ずオーダーする具材 TOP3 は、「鴨血」「毛肚（牛の胃袋）」「凍豆腐（高野豆腐のようなモノ）」。

筆頭格の鴨血は、アヒルの血を固めて作ったゼリー状の一品で、絶妙な食感に病み付きになる。身体に良いと信じ込み、いつも食べ過ぎてしまうのが玉に瑕なのだが。

最後に③のつけダレ。火鍋レストランには大抵、各種調味料がズラリと並ぶ「タレ調合コーナー」があり、客はそこで自分の好みに応じた「マイだれ」を作る。醤油、XO 醬（中華風合わせ調味料）、腐乳醬（豆腐の麴付発酵食品）、ごま油、サテソース、オイスターソースなどのほか、薬味としては、ネギ、香菜（パクチー）、ニンニク、ピーナッツ、唐辛子、胡麻、塩、胡椒などが揃う。私の定番は、激辛鍋で煮た具材をネギとパクチーたっぷりのごま油に付けてマイルドな味にしながら食べることだ。

★ ★ ★ ★ ★

さて、激辛火鍋ではアフターケアも重要。火照った胃袋や身体を冷やすために「涼茶」を飲むことも多い。甘い漢方茶で、「王老吉」「加多宝」などの缶入りタイプが手頃だ。また、辛い物を食べ過ぎてしまったら、お腹のトラブルにも要注意。火鍋ナイトの翌日は胃がキリキリして、生活に支障をきたす人もいる（私のことだ）。調子に乗って食べ続けると、お尻の疾病につながることもある（これも私）。激辛火鍋の本場、四川省や重慶市では、この疾病の罹患者が多いそう。火鍋の後の「出口戦略」も忘れずに……。

文中の見解は全て筆者の個人的意見です。写真、グラフ、表なども全て筆者によるものです。

最終頁に重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

◆ 注 意 事 項 ◆

東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号
 日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入

外国証券等について

・外国証券は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

① 国内株式の手数料等およびリスクについて

・国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2420%（税込み）、最低3,240円（税込み）（売却約定代金が3,240円未満の場合、約定代金相当額）の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 外国株式等の手数料およびリスクについて

・外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買の場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8640%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として2.75%（手数料相当額）となるように設定したものです。当該店頭取引価格には手数料相当額が含まれています。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

利益相反情報について

この資料を掲載後、掲載された銘柄を対象としたEB等を東洋証券（株）が販売する可能性があります。

東洋証券（株）および同関連会社、またその役職員はこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

この資料は、東洋証券（株）が各種のデータに基づき投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的としたものではありません。また、この資料に記載された情報の正確性および完全性を保証するものでもありません。この資料に記載された意見や予測は、資料作成時点の見通しであり、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

この資料に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、東洋証券（株）は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。株価の変動や、発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがありますので、投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

なお、東洋証券（株）および同関連会社の役職員またはその家族がこの資料に掲載されている企業の証券を保有する可能性、取引する可能性があります。

この資料の著作権は東洋証券（株）に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。

東洋証券株式会社

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1
 TEL 03 (5117) 1040

<http://www.toyo-sec.co.jp/>

2019年7月26日
 審査部審査済